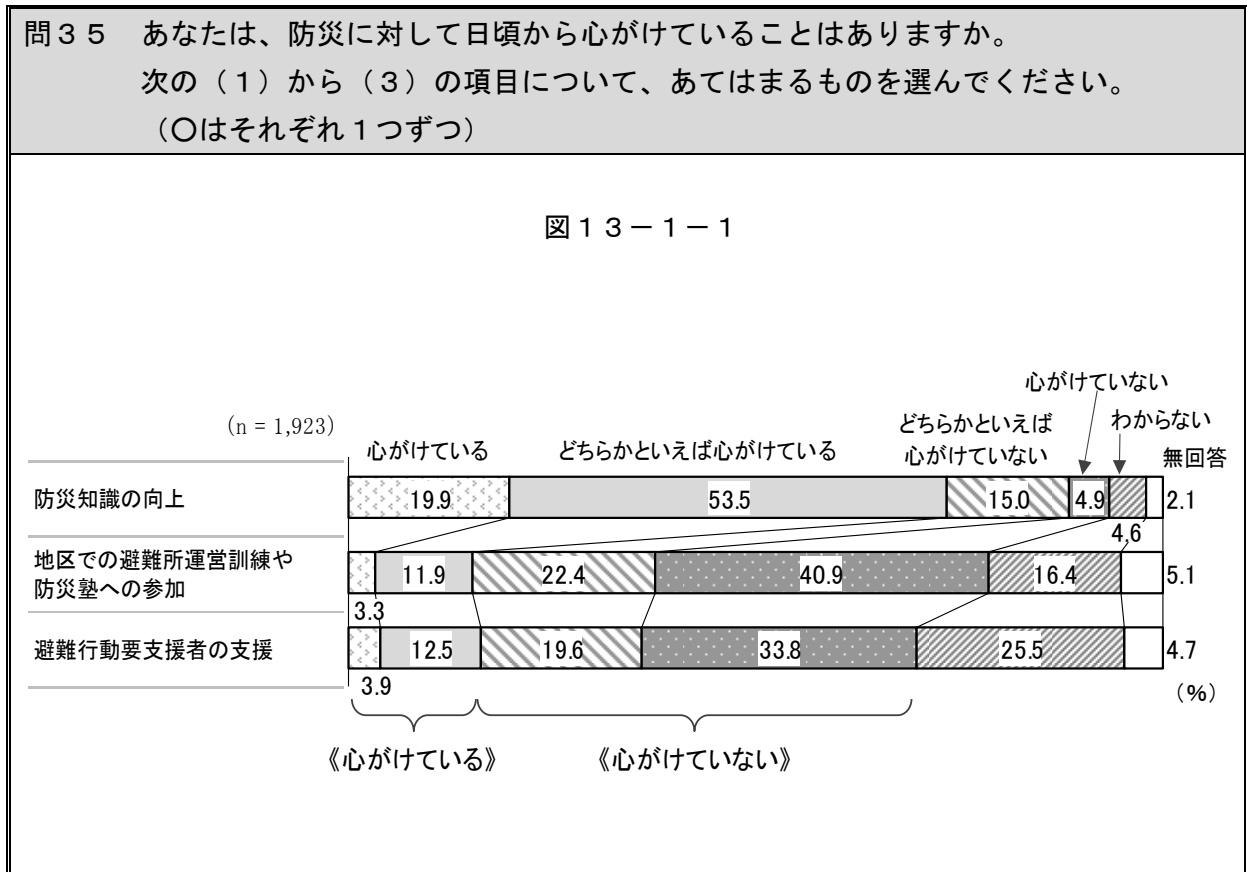


13. 災害時の備え

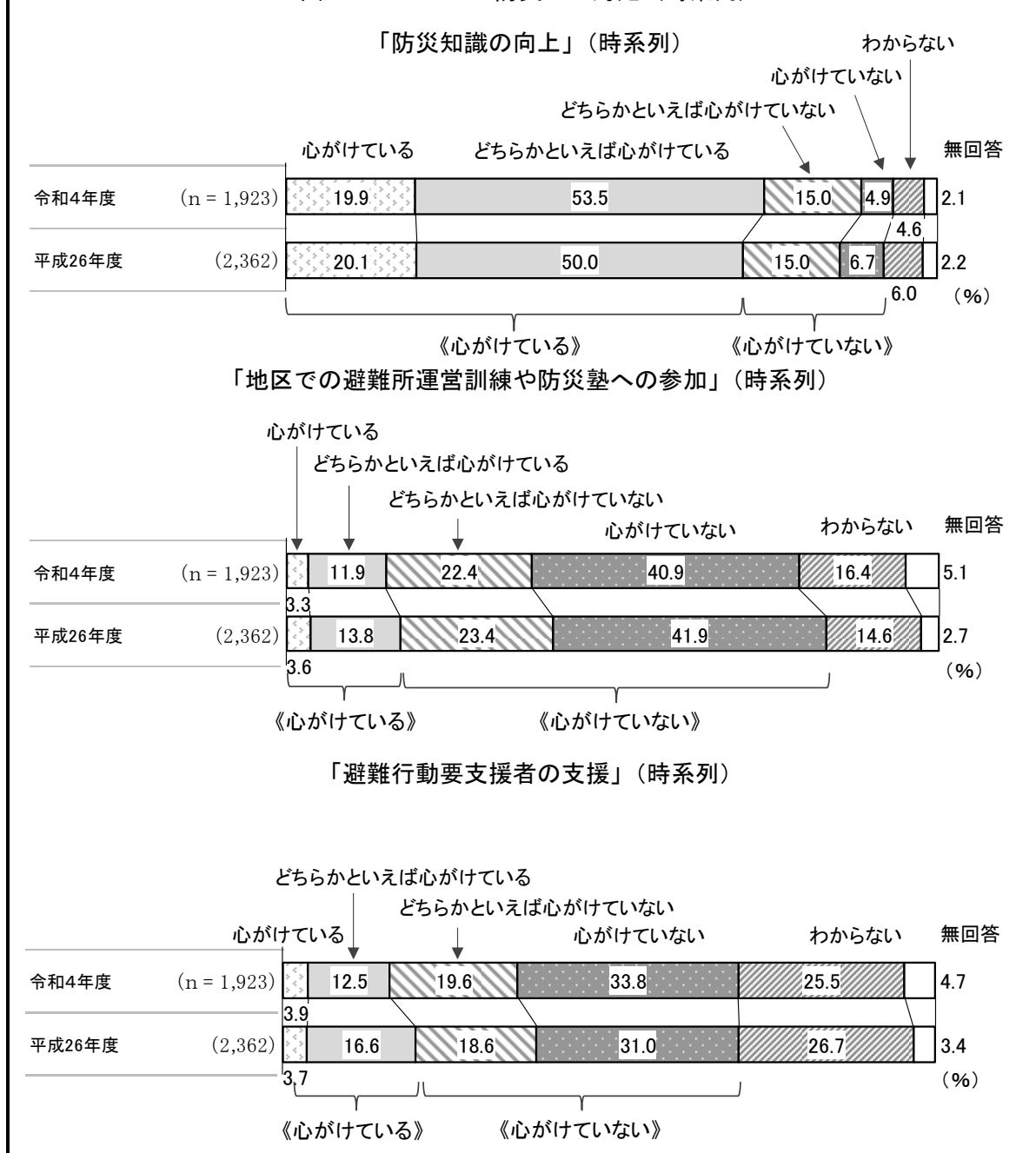
(1) 防災への対処

◎「防災知識の向上」は《心がけている》が7割を超え



防災に対して日頃から心がけていることがあるか聞いたところ、「心がけている」と「どちらかといえば心がけている」を合わせた《心がけている》は「防災知識の向上」(73.4%)が7割を超え、一方「地区での避難所運営訓練や防災塾への参加」(15.2%)、「避難行動要支援者の支援」(16.4%)は1割半ばにとどまっており、「防災知識の向上」を心がけている人が多い。「どちらかといえば心がけていない」と「心がけていない」を合わせた《心がけていない》は「地区での避難所運営訓練や防災塾への参加」(63.3%)が6割を超えて、他の2つより高くなっている。(図13-1-1)

図 1 3 - 1 - 2 防災への対処（時系列）



「防災知識の向上」について平成 26 年度からの時系列の変化をみると、《心にかけている》は平成 26 年度 (70.1%) から令和 4 年度 (73.4%)、《心にかけていない》は平成 26 年度 (21.7%) から令和 4 年度 (19.9%) で大きな違いはみられない。

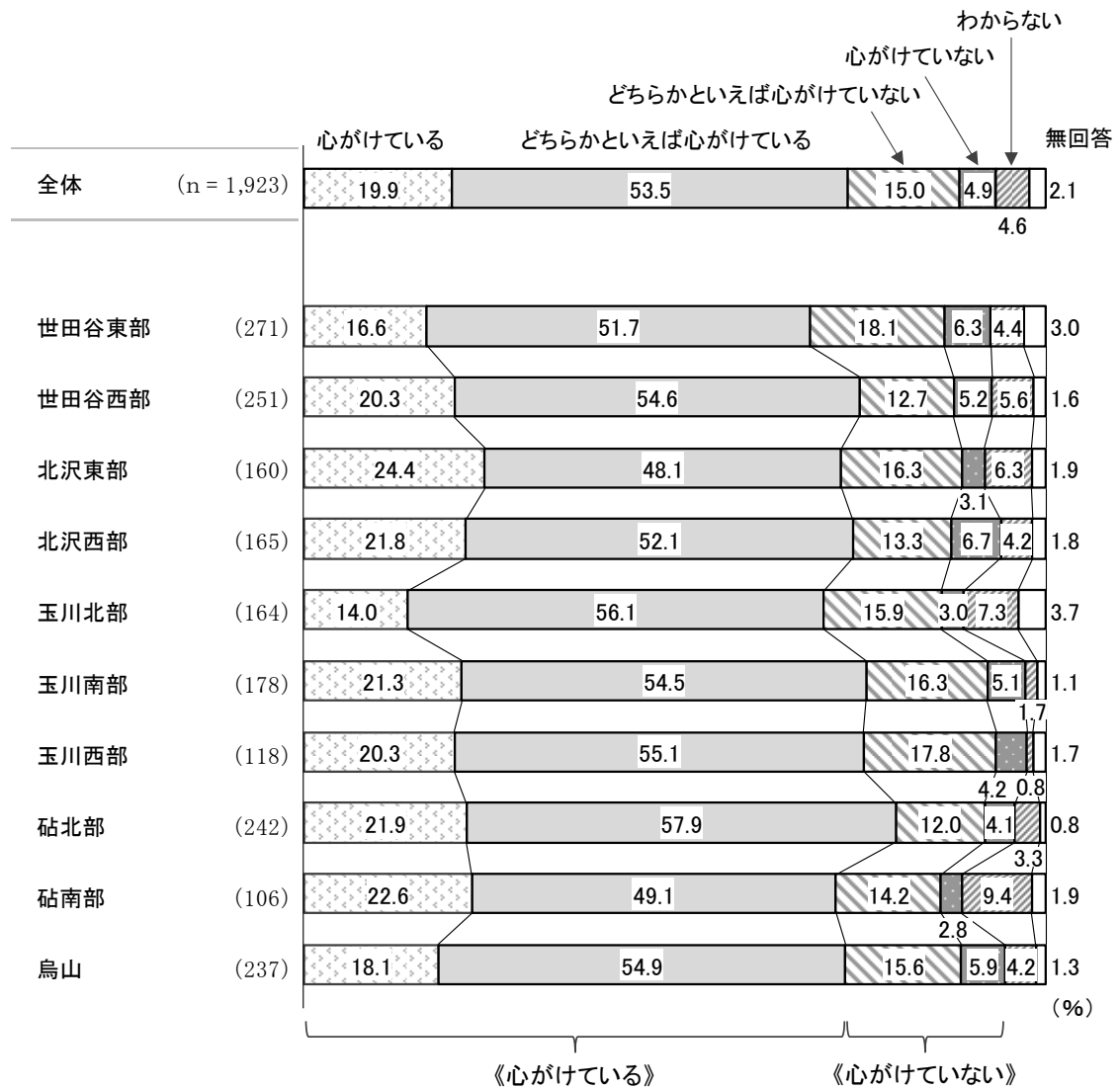
「地区での避難所運営訓練や防災塾への参加」について平成 26 年度からの時系列の変化をみると、《心にかけている》は平成 26 年度 (17.4%) から令和 4 年度 (15.2%)、《心にかけていない》は平成 26 年度 (65.3%) から令和 4 年度 (63.3%) で大きな違いはみられない。

「避難行動要支援者の支援」について平成 26 年度からの時系列の変化をみると、《心にかけている》は平成 26 年度 (20.3%) から令和 4 年度 (16.4%) で減少している。《心にかけていない》は平成 26 年度 (49.6%) から令和 4 年度 (53.4%) で増加している。

(図 1 3 - 1 - 2)

図 1 3 - 1 - 3 防災への対処

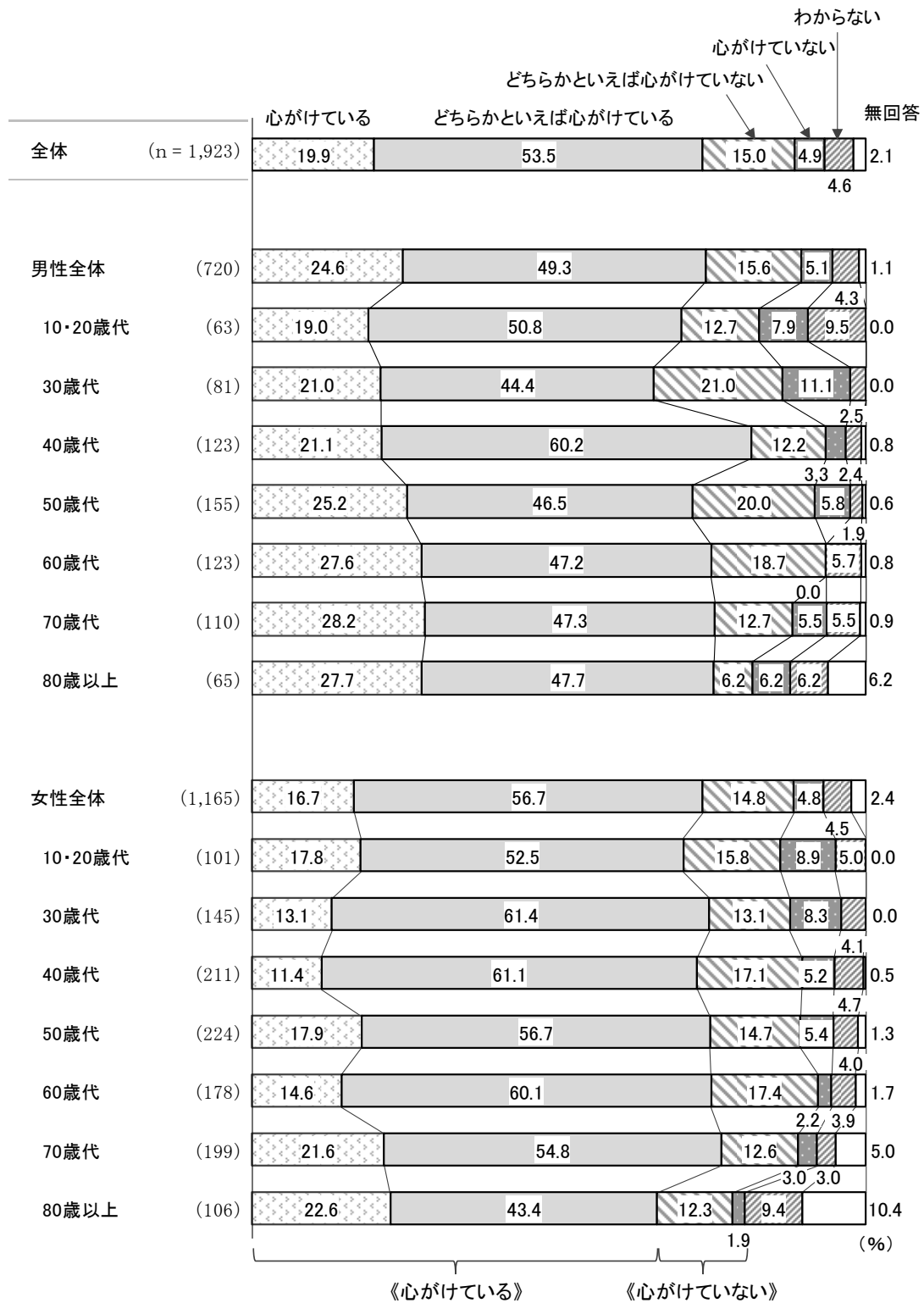
「防災知識の向上」(地域別)



「防災知識の向上」について地域別にみると、「心がけている」は北沢東部で2割半ばとなっている。《心がけている》は砧北部で8割、《心がけていない》は世田谷東部で2割半ばとなっている。(図 1 3 - 1 - 3)

図 1 3 - 1 - 4 防災への対処

「防災知識の向上」(性・年齢別)

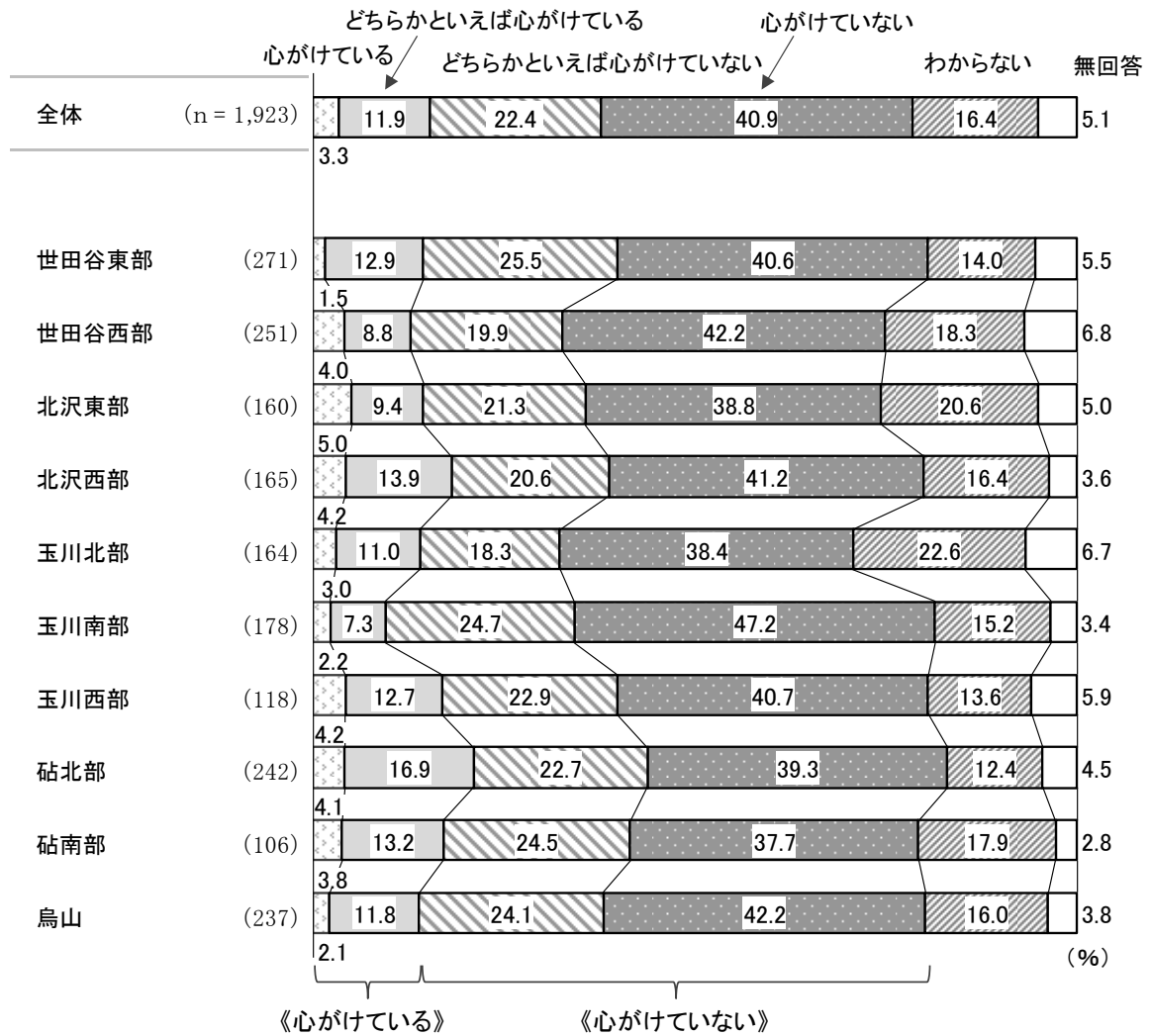


「防災知識の向上」について性・年齢別にみると、《心がかけている》は男性の40歳代が8割を超え、女性の30歳代、50歳代、60歳代、70歳代が7割半ばとなっている。

(図 1 3 - 1 - 4)

図 13-1-5 防災への対処

「地区での避難所運営訓練や防災塾への参加」(地域別)

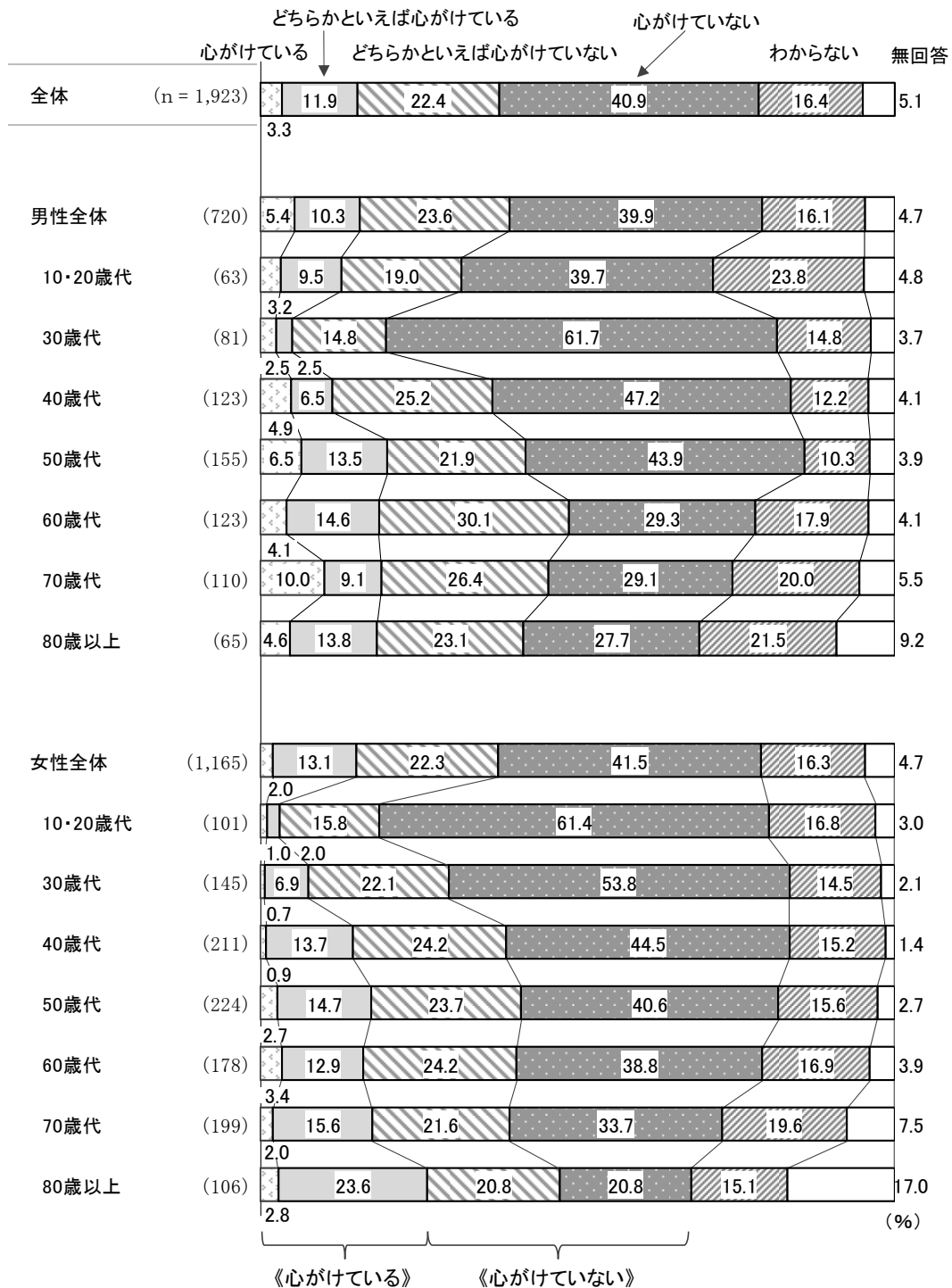


「地区での避難所運営訓練や防災塾への参加」について地域別にみると、《心がけている》は砧北部で2割を超えている。《心がけていない》は玉川南部で7割を超えている。

(図 13-1-5)

図 1 3 - 1 - 6 防災への対処

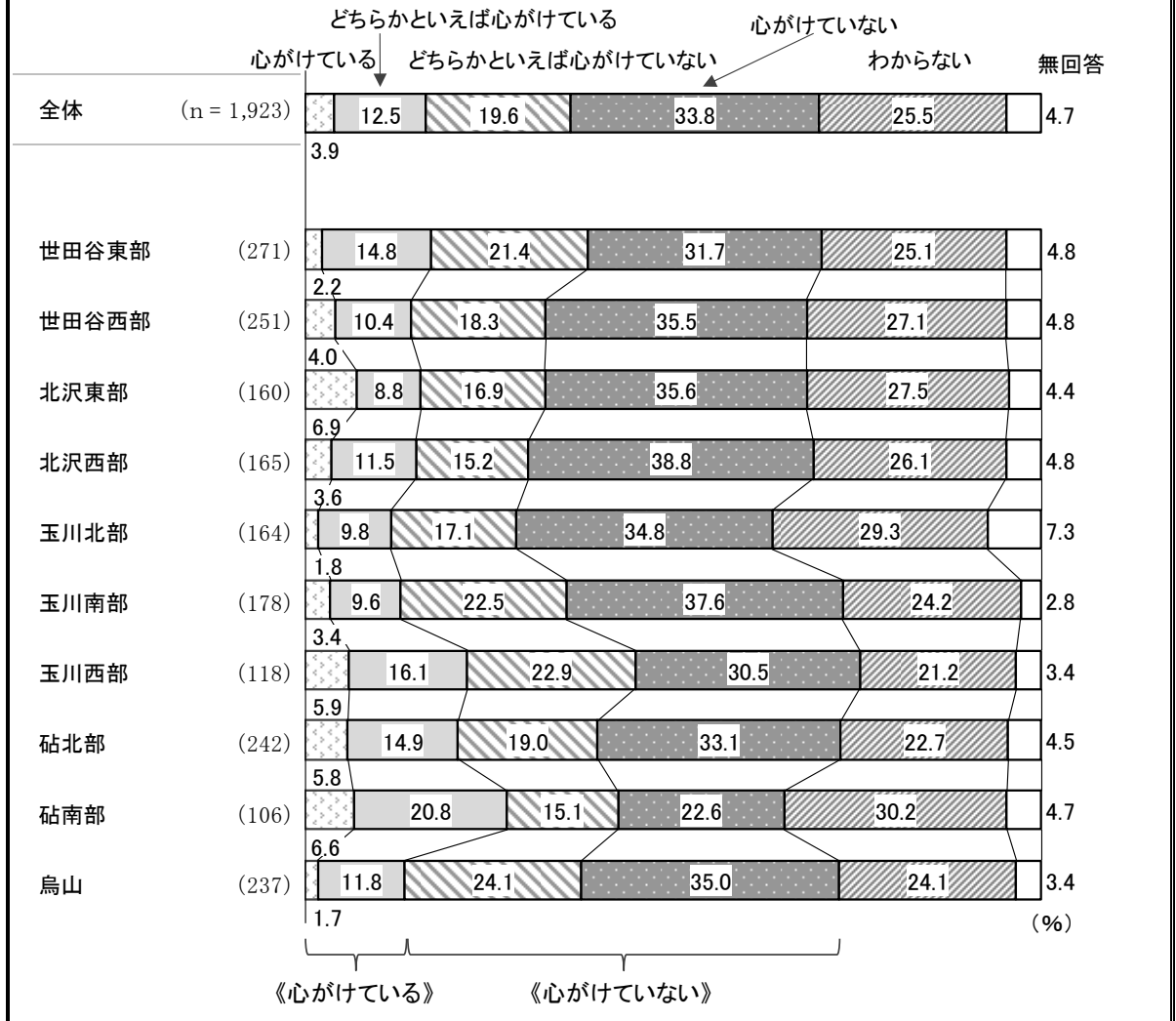
「地区での避難所運営訓練や防災塾への参加」(性・年齢別)



「地区での避難所運営訓練や防災塾への参加」について性・年齢別にみると、《心がけている》は女性の80歳以上が2割半ば、男性の50歳代が2割となっている。《心がけていない》は女性の10・20歳代、男性の30歳代が8割近くとなっている。(図13-1-6)

図 1 3 - 1 - 7 防災への対処

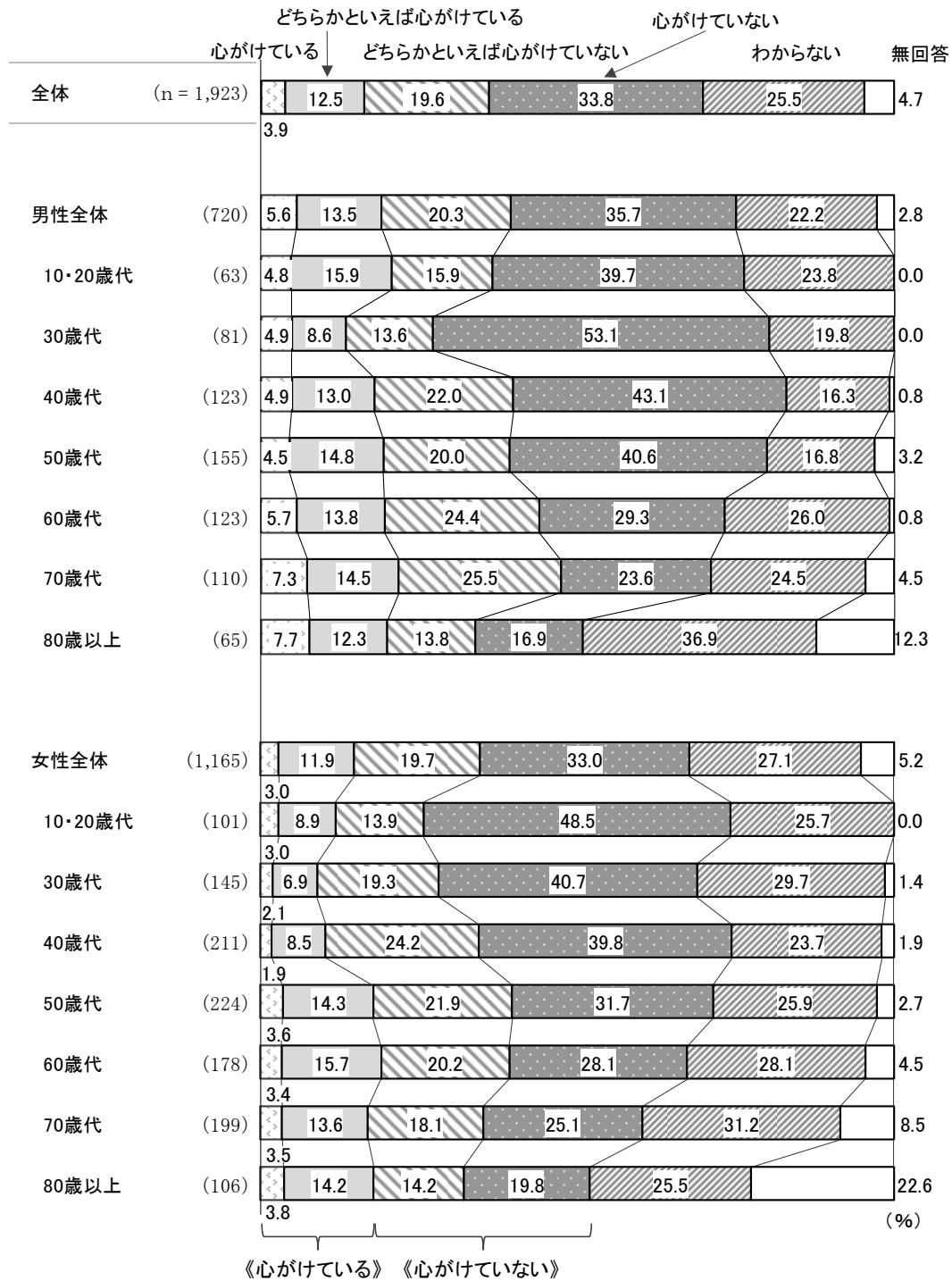
「避難行動要支援者の支援」(地域別)



「避難行動要支援者の支援」について地域別にみると、《心がけている》は砧南部で3割近くとなっている。《心がけていない》は玉川南部で6割となっている。
(図 1 3 - 1 - 7)

図 1 3 - 1 - 8 防災への対処

「避難行動要支援者の支援」(性・年齢別)



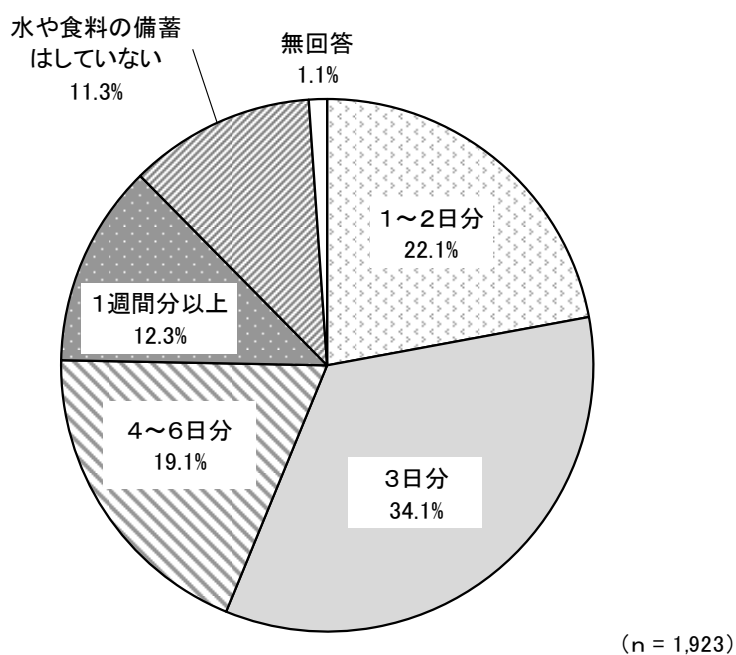
「避難行動要支援者の支援」について性・年齢別にみると、《心にかけている》は男性の70歳代が2割を超えている。《心にかけていない》は男性の30歳代が7割近くとなっている。(図13-1-8)

(2) 水や食料の備蓄について

◎水や食料の備蓄は「3日分」が3割半ば

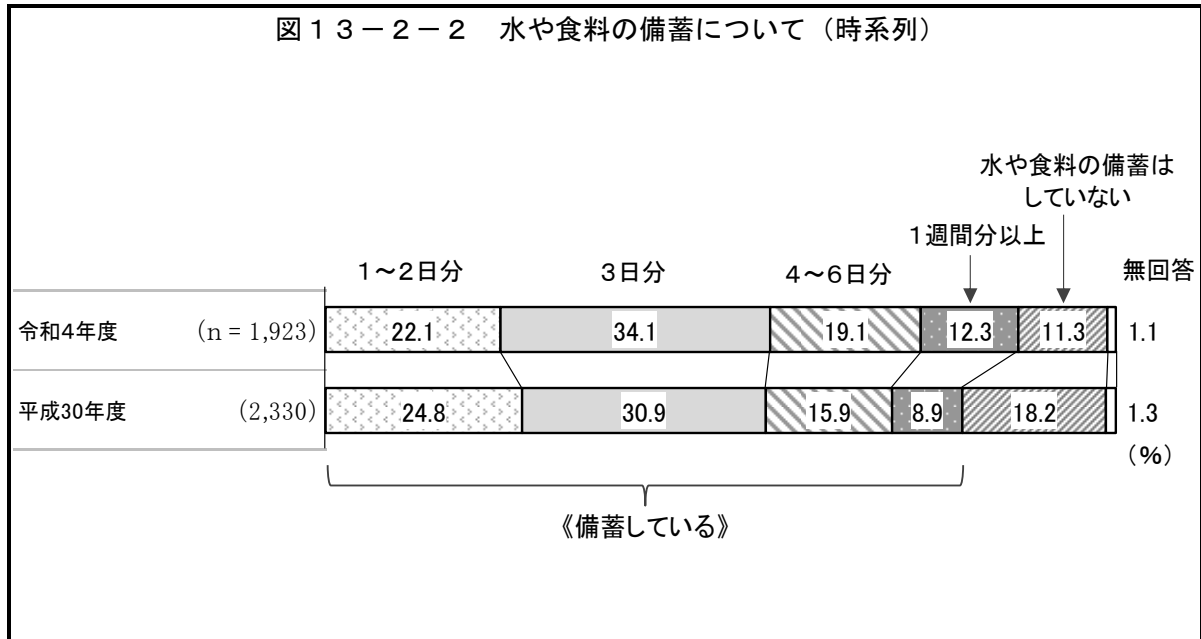
問36 あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料は何日分備蓄していますか。
(○は1つ)

図13-2-1



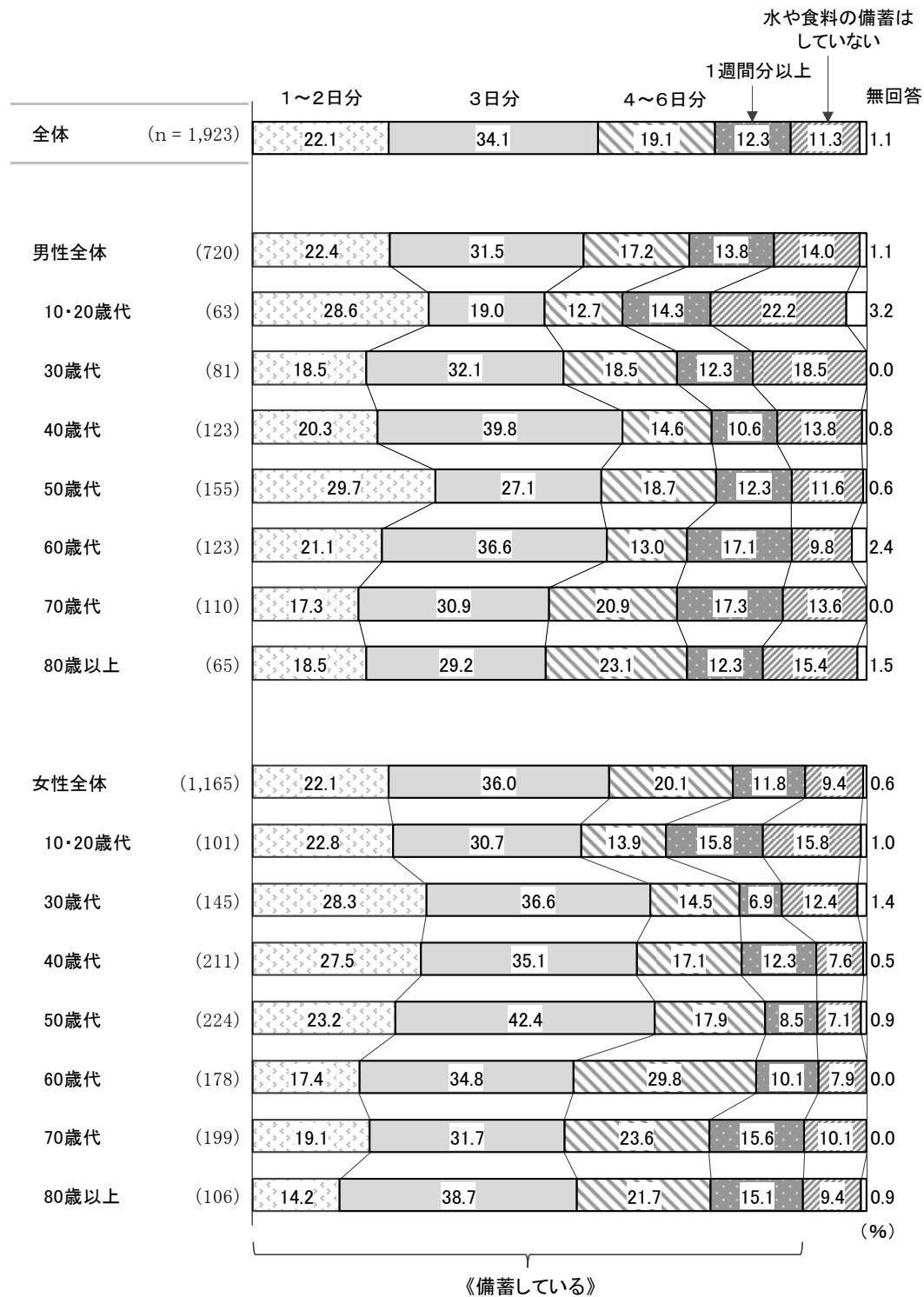
災害に備えて水や食料を何日分備蓄しているかを聞いたところ、「3日分」(34.1%)が3割半ばで最も高く、以下、「1~2日分」(22.1%)、「4~6日分」(19.1%)などと続いている。「水や食料の備蓄はしていない」(11.3%)は1割を超えている。(図13-2-1)

図 1 3 - 2 - 2 水や食料の備蓄について（時系列）



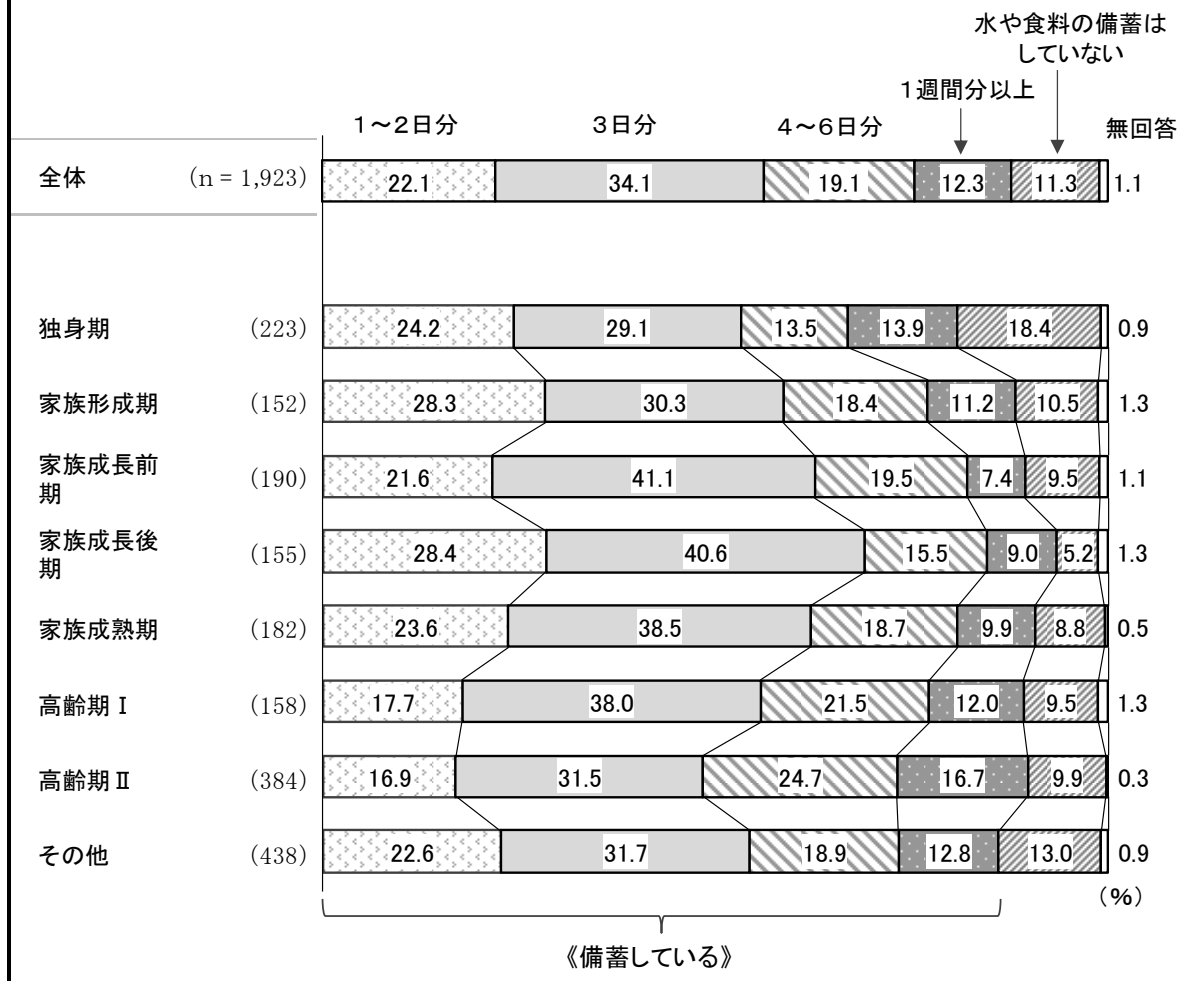
平成 30 年度からの時系列の変化をみると、《備蓄している》は平成 30 年度（80.5%）から令和 4 年度（87.6%）で増加している。（図 1 3 - 2 - 2）

図 1 3 - 2 - 3 水や食料の備蓄について（性・年齢別）



性・年齢別にみると、3日分以上（「3日分」＋「4～6日分」＋「1週間分以上」）の水や食料を備蓄している割合は、男性の10・20歳代を除き、いずれの年代も5割を超えており、特に女性の60歳代、80歳以上は7割半ばとなっている。「水や食料の備蓄はしていない」は男性、女性ともに10・20歳代が他の年代に比べ高く、男性の10・20歳代で2割を超え、女性の10・20歳代で1割半ばとなっている。（図13-2-3）

図13-2-4 水や食料の備蓄について（ライフステージ別）

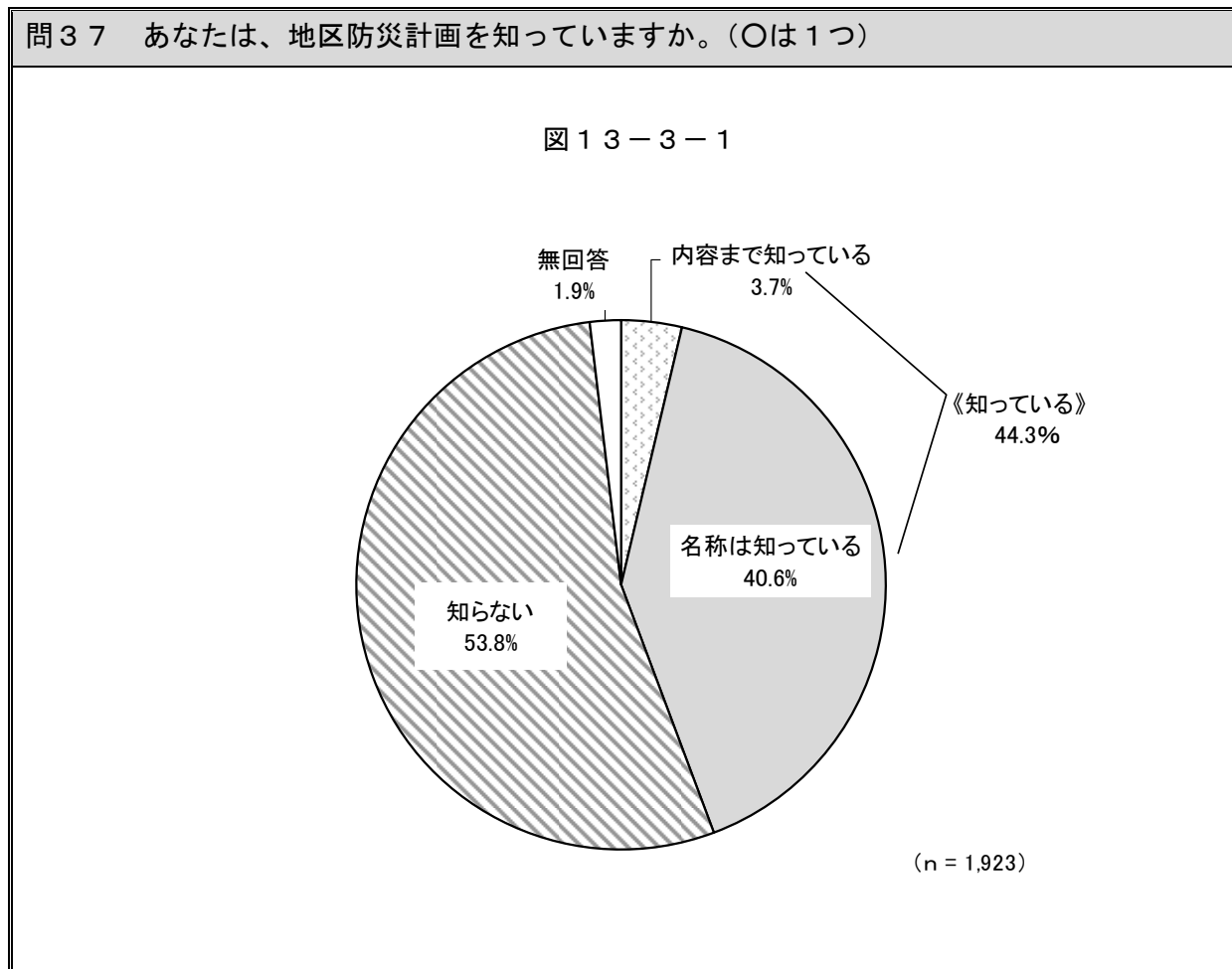


ライフステージ別にみると、3日以上（「3日分」＋「4～6日分」＋「1週間分以上」）の水や食料を備蓄している割合は高齢期Ⅰ、高齢期Ⅱが7割を超えている。一方、独身期で3日以上備蓄している割合は6割近くと他のライフステージに比べ低い。

（図13-2-4）

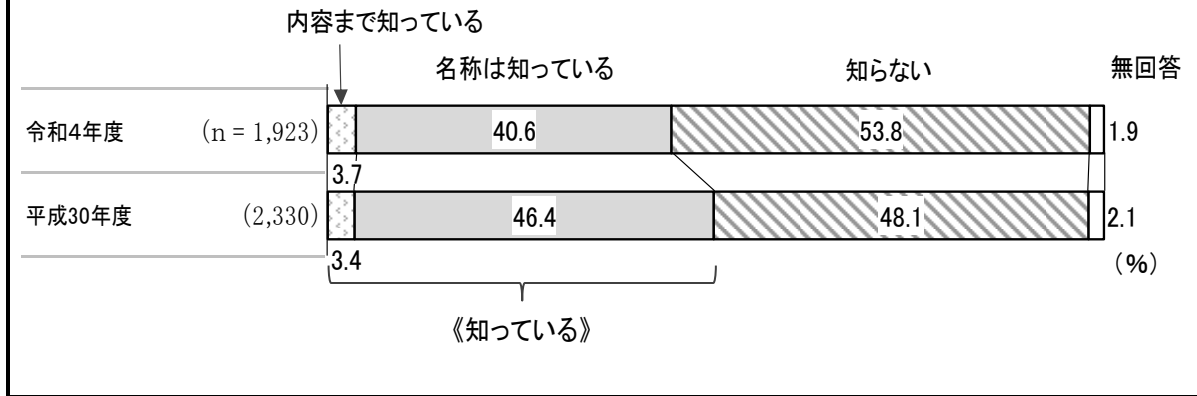
(3) 地区防災計画の認知度

◎地区防災計画の「名称は知っている」がほぼ4割だが「内容まで知っている」は1割未満



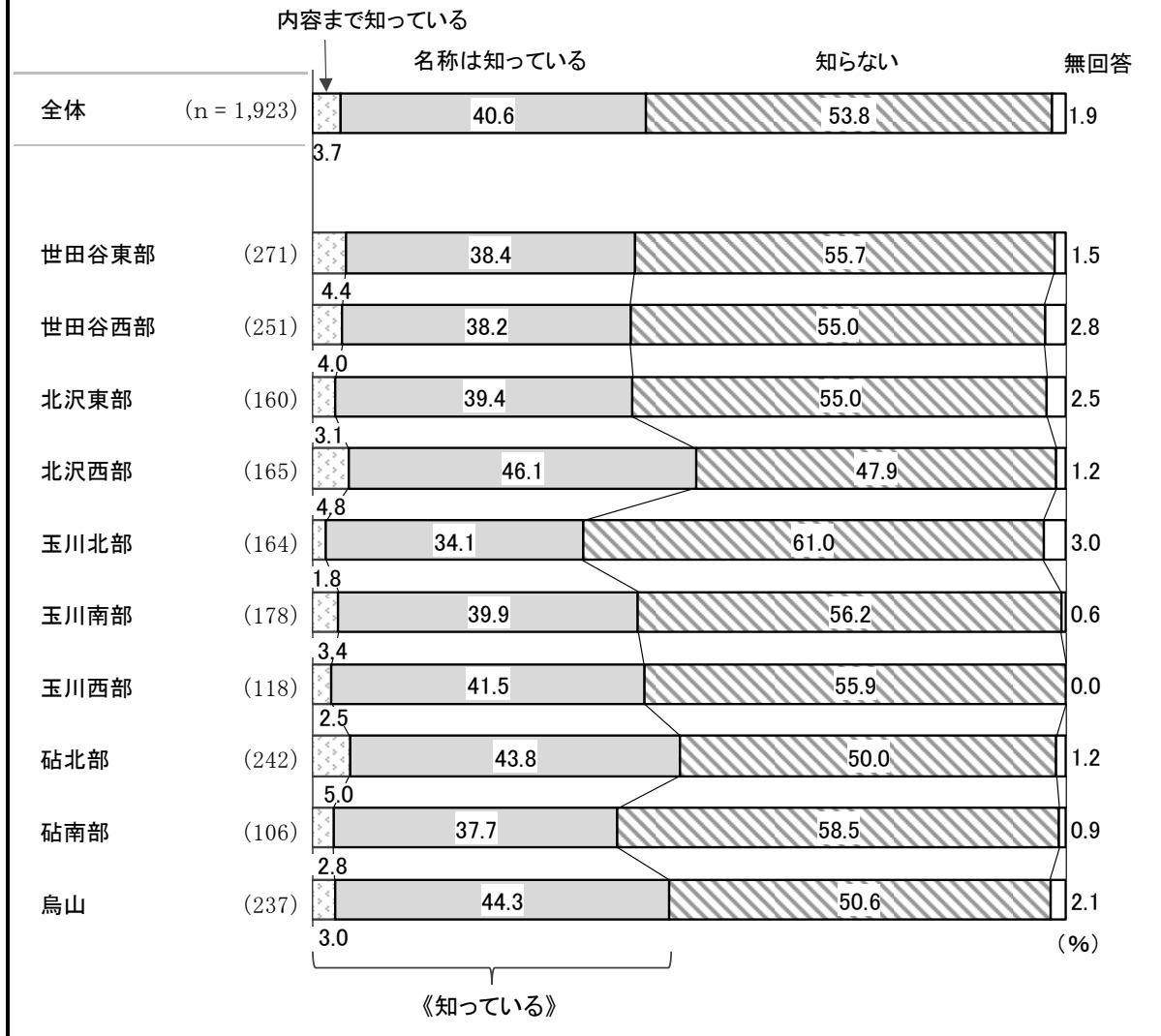
地区防災計画の認知度を聞いたところ、「名称は知っている」(40.6%)がほぼ4割、「内容まで知っている」(3.7%)と合わせた《知っている》(44.3%)が4割半ば、「知らない」(53.8%)が5割を超えている。(図13-3-1)

図 1 3 - 3 - 2 地区防災計画の認知度（時系列）



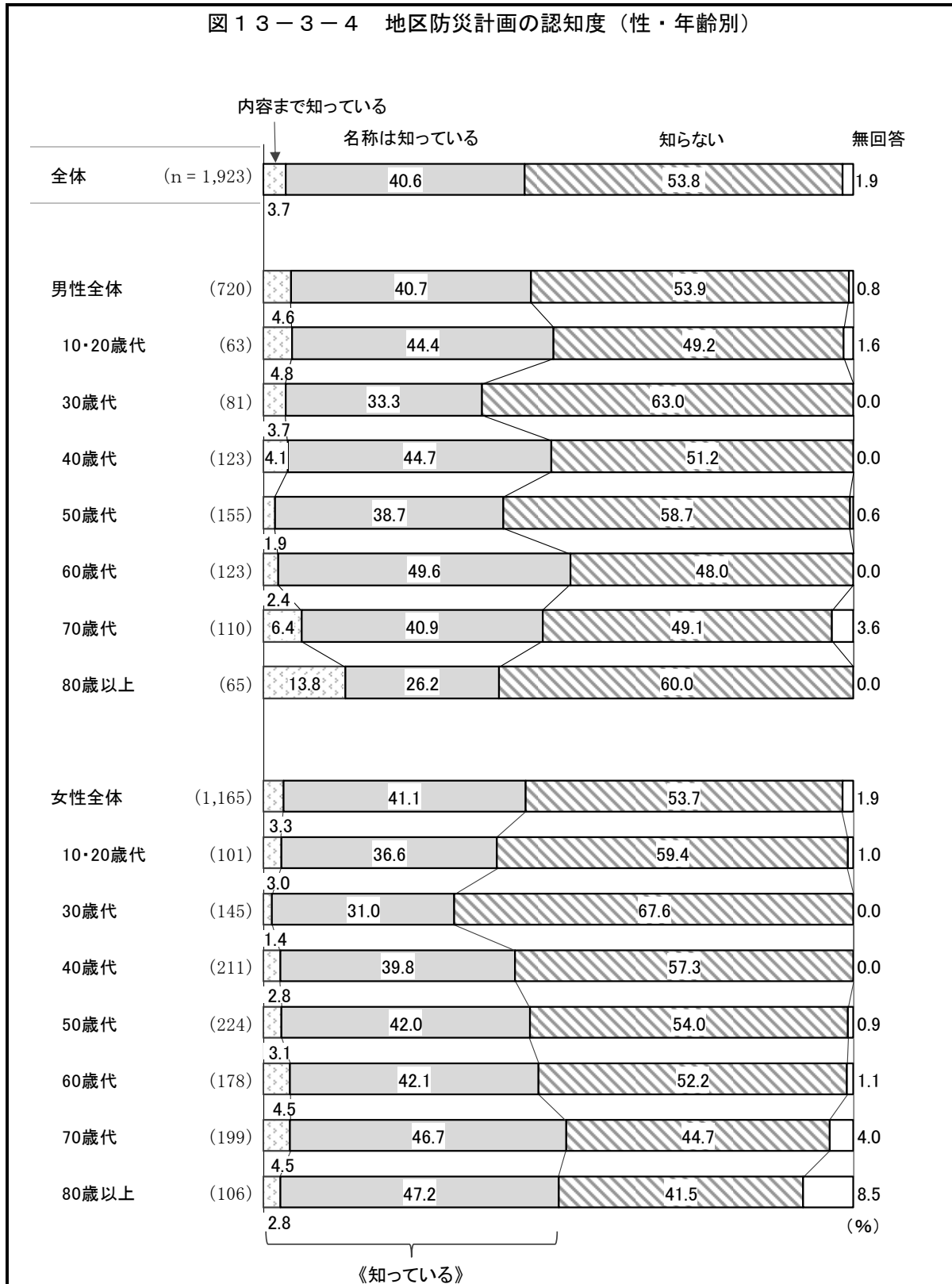
平成 30 年度からの時系列の変化をみると、《知っている》は平成 30 年度（49.8%）から令和 4 年度（44.3%）で減少している。（図 1 3 - 3 - 2）

図 1 3 - 3 - 3 地区防災計画の認知度（地域別）



地域別にみると、《知っている》は北沢西部ではほぼ5割。「知らない」は玉川北部で6割を超えている。（図 1 3 - 3 - 3）

図 1 3 - 3 - 4 地区防災計画の認知度（性・年齢別）

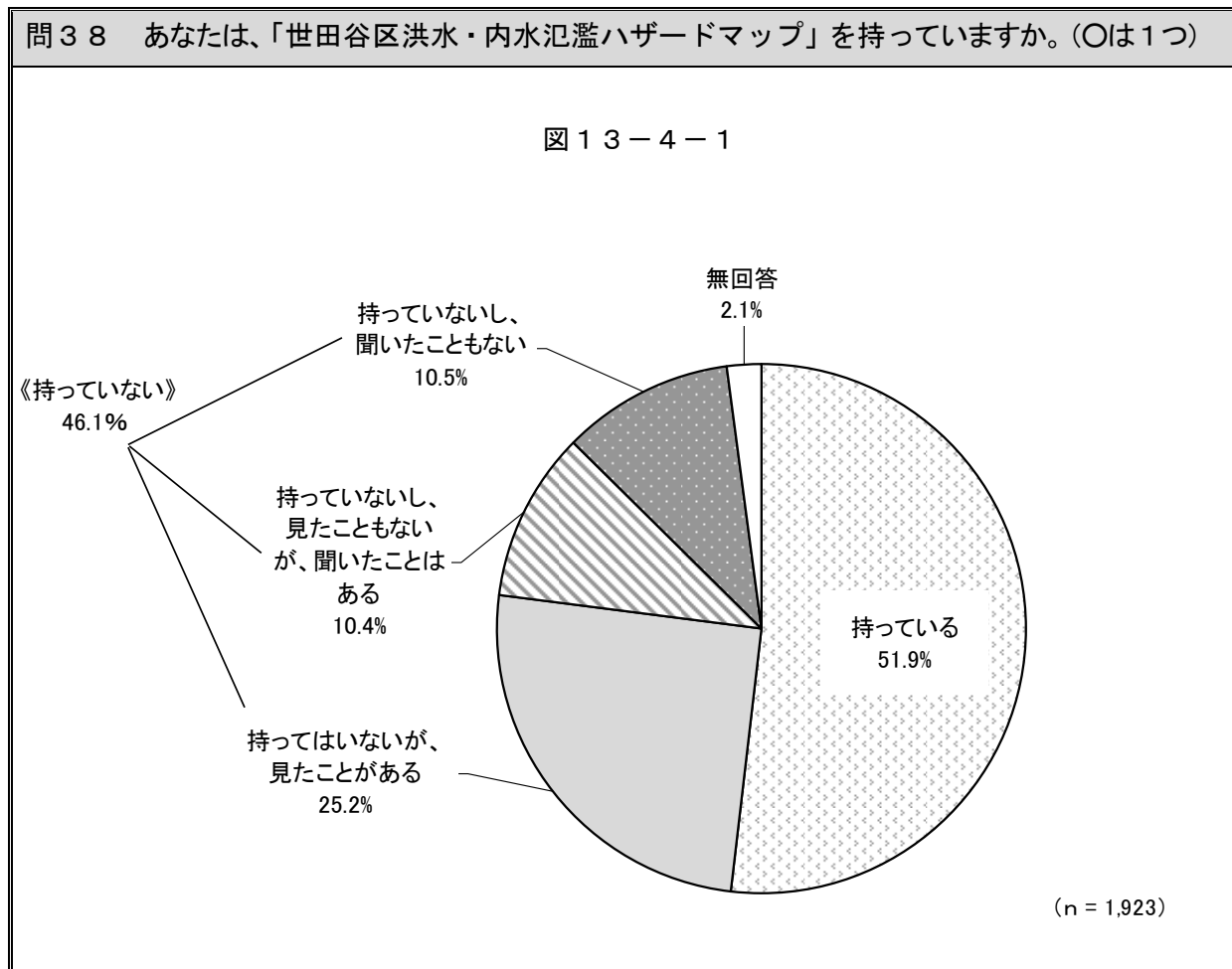


性・年齢別にみると、《知っている》は男性の60歳代と女性の70歳代で5割を超えている。「知らない」は男性の30歳代で6割を超え、女性の30歳代で7割近くとなっている。

(図 1 3 - 3 - 4)

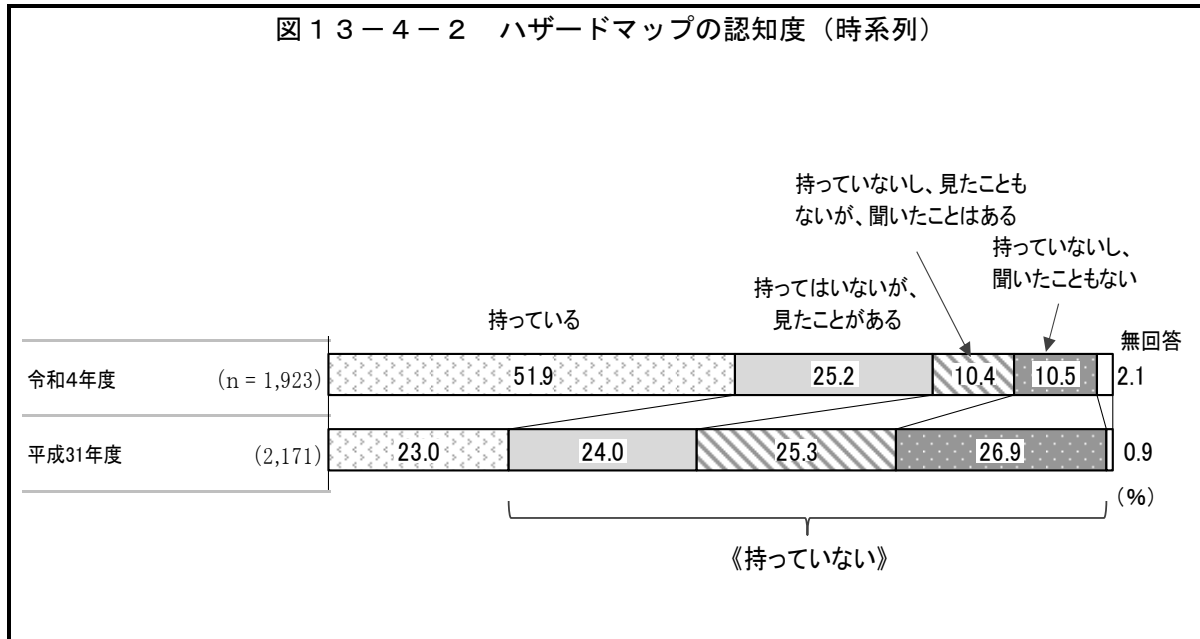
(4) ハザードマップの認知度

◎「世田谷区洪水・内水氾濫ハザードマップ」を「持っている」が5割を超える



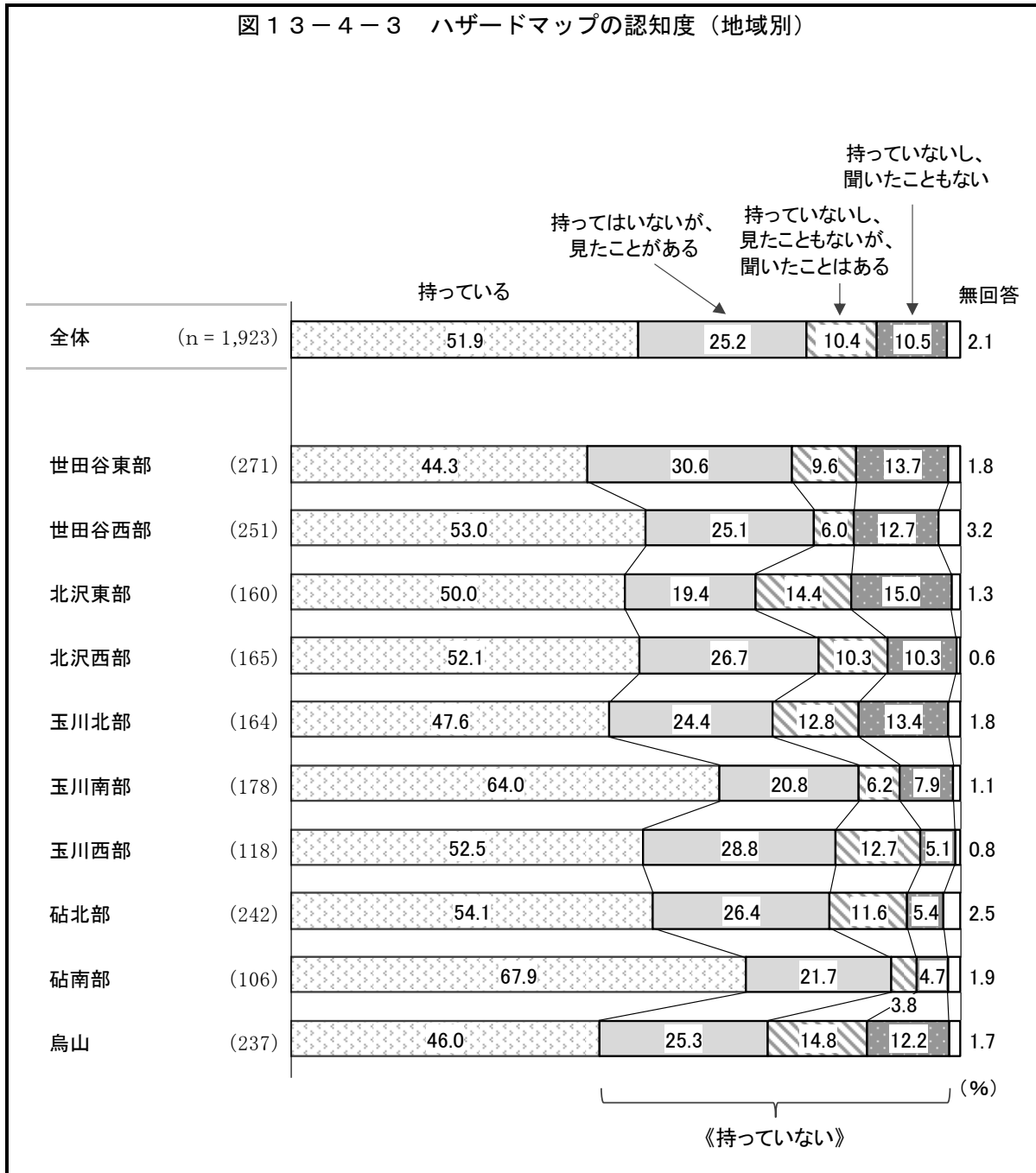
ハザードマップの認知度を聞いたところ、「持っている」(51.9%)が5割を超え、「持ってはいないが、見たことがある」(25.2%)と「持っていないし、見たこともないが、聞いたことはある」(10.4%)と「持っていないし、聞いたこともない」(10.5%)を合わせた《持っていない》(46.1%)が4割半ばとなっている。(図13-4-1)

図 1 3 - 4 - 2 ハザードマップの認知度（時系列）



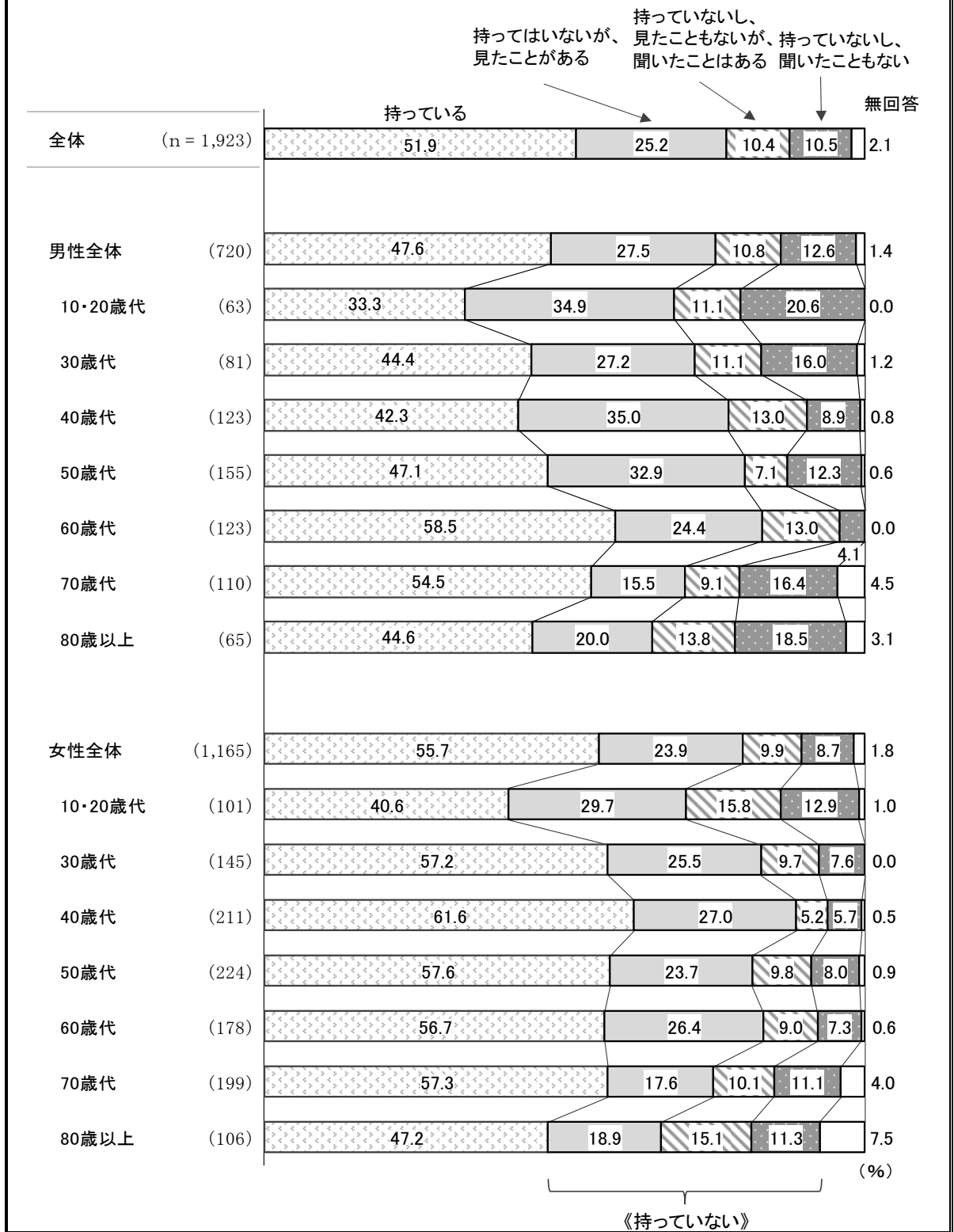
平成 31 年度からの時系列の変化をみると、《持っていない》は平成 31 年度（76.2%）から令和 4 年度（46.1%）にかけて大きく減少しており、ハザードマップを所有している人が大きく増加している。（図 1 3 - 4 - 2）

図 1 3 - 4 - 3 ハザードマップの認知度 (地域別)



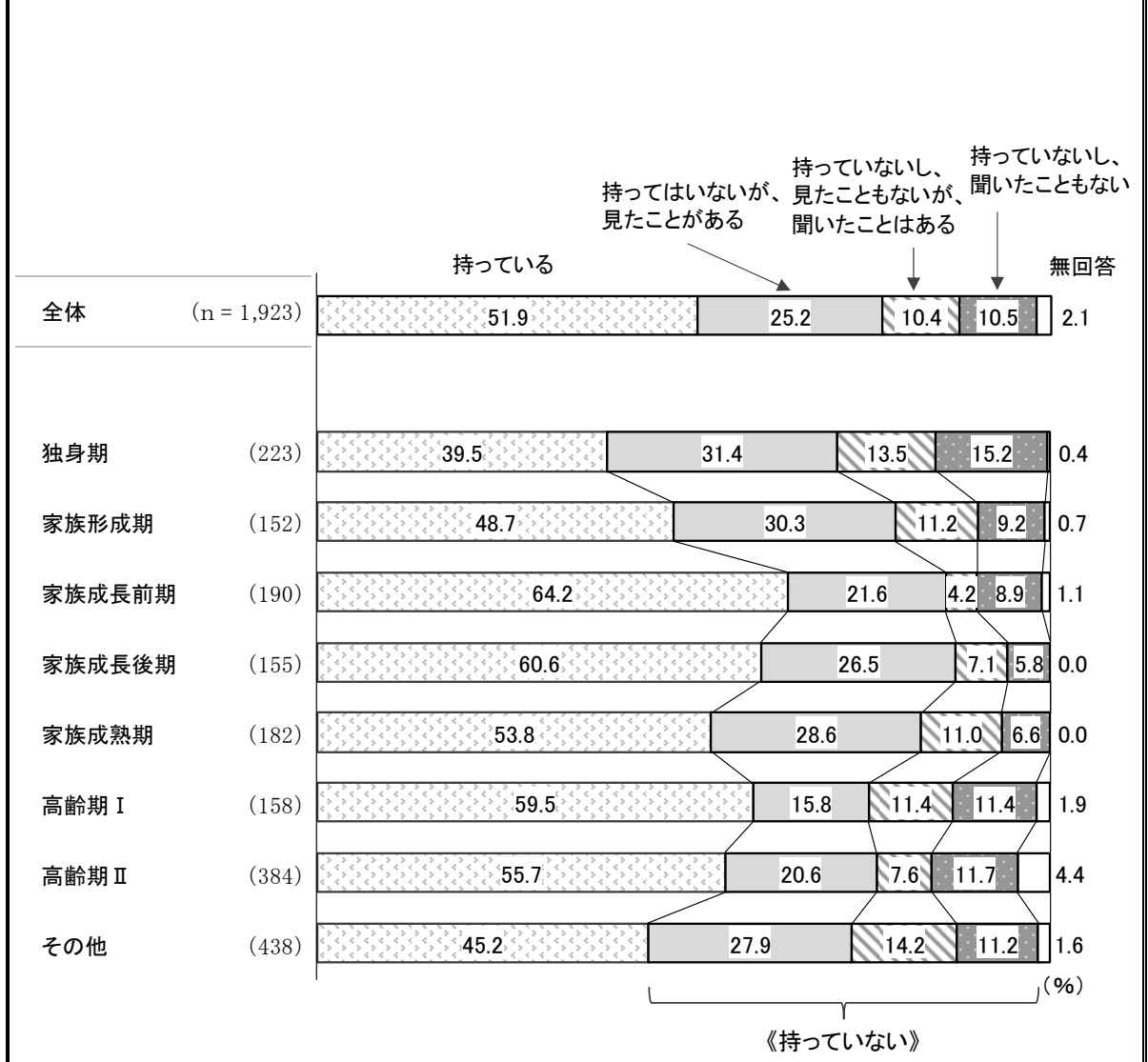
地域別にみると、「持っている」は砧南部で7割近く、玉川南部で6割半ばとなっている。
(図 1 3 - 4 - 3)

図13-4-4 ハザードマップの認知度（性・年齢別）



性・年齢別にみると、「持っている」は女性の40歳代で6割を超えている。《持っていない》は男性の10・20歳代で7割近く、女性の10・20歳代で6割近くと、他に比べて高くなっている。(図13-4-4)

図 1 3 - 4 - 5 ハザードマップの認知度 (ライフステージ別)



ライフステージ別にみると、「持っている」は家族成長前期で6割半ばとなっている。《持っていない》は独身期で6割となっている。(図 1 3 - 4 - 5)

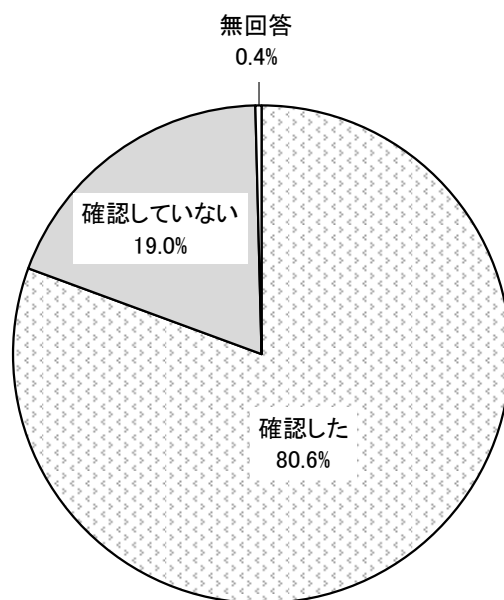
(5) ハザードマップの活用状況

◎「世田谷区洪水・内水氾濫ハザードマップ」を「確認した」がほぼ8割

(問38で「持っている」「持ってはいないが、見たことがある」と答えた方に)

問38-1 あなたは、「世田谷区洪水・内水氾濫ハザードマップ」で自宅の浸水リスク
(浸水するかどうか、浸水する場合は浸水の深さ)を確認しましたか。
(○は1つ)

図13-5-1

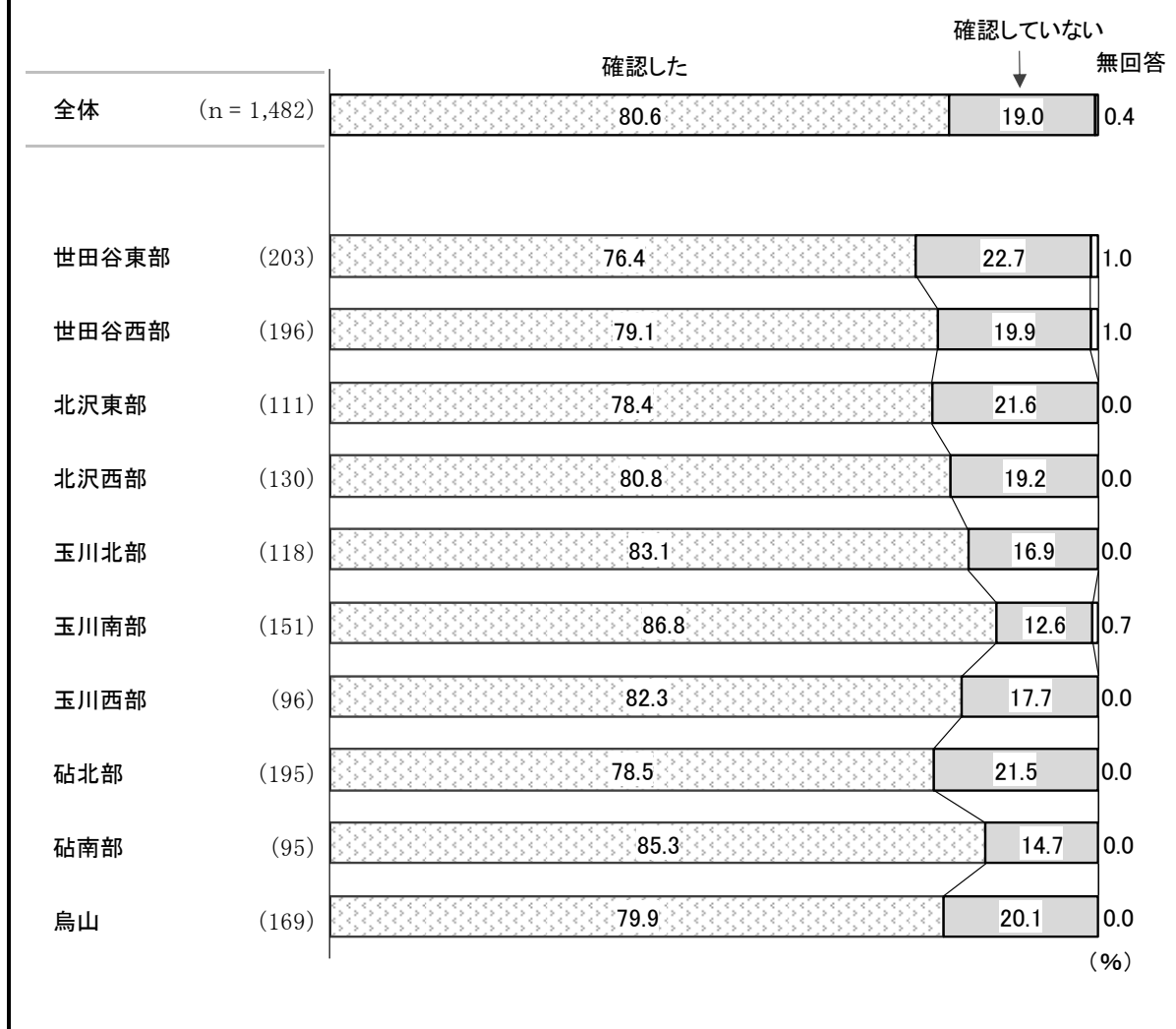


(n = 1,482)

ハザードマップの活用状況を聞いたところ、「確認した」(80.6%)がほぼ8割となっている。

(図13-5-1)

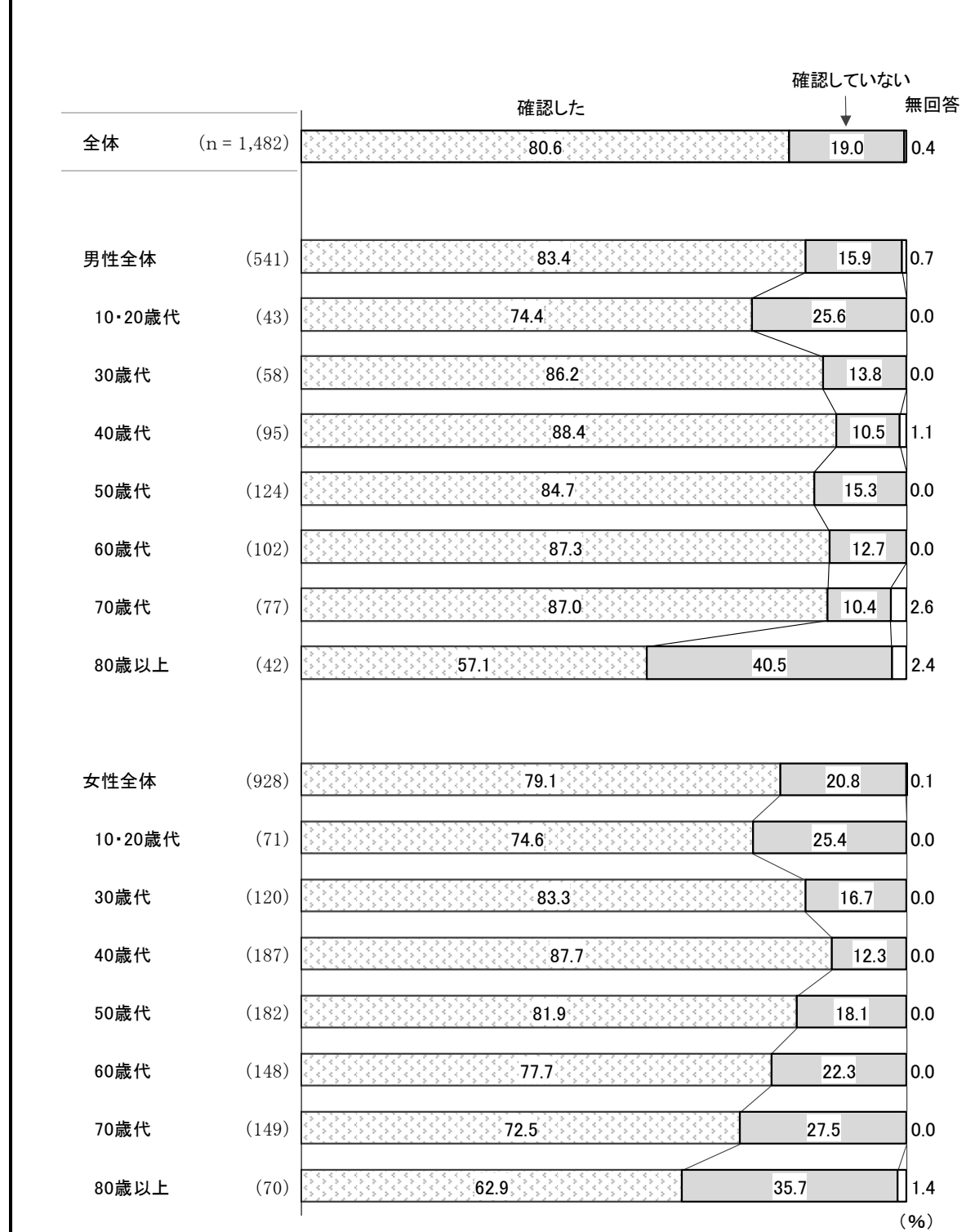
図13-5-2 ハザードマップの活用状況（地域別）



地域別にみると、「確認した」は玉川南部で9割近く、砧南部で8割半ばとなっている。

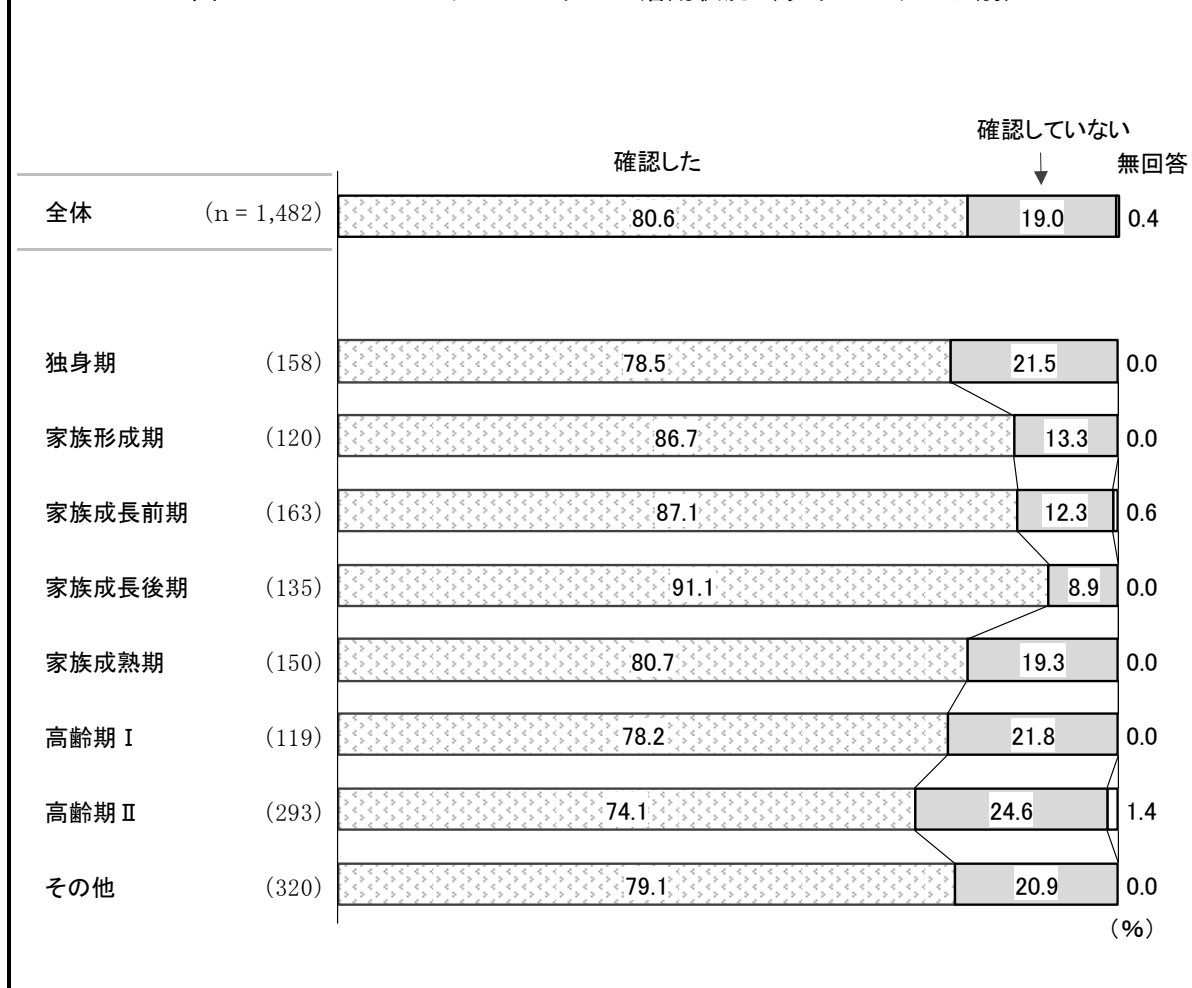
(図13-5-2)

図 1 3 - 5 - 3 ハザードマップの活用状況（性・年齢別）



性・年齢別にみると、「確認していない」は男性の80歳以上でほぼ4割、女性の80歳以上で3割半ばと高くなっている。（図13-5-3）

図 1 3 - 5 - 4 ハザードマップの活用状況 (ライフステージ別)



ライフステージ別にみると、「確認した」は家族成長後期で9割を超えている。「確認していない」は高齢期IIで2割半ばとなっている。(図 1 3 - 5 - 4)